

「野幌地区都市緑地等における整備・保全の方針及びゾーニング計画(案)」 に対する意見募集の結果と市の考え方

平成29年5月

江別市建設部顔づくり推進室街路整備課

■意見の募集結果

募集期間	平成29年3月1日～平成29年4月7日
提出者数	5人
提出件数	1件

■意見に対する考え方の区分

区分	意見の反映状況
A	意見を受けて案に反映するもの
B	案と意見の趣旨が同様と考えられるもの
C	案に反映していないが、今後の参考等とするもの
D	案に反映しないもの
E	その他の意見

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
1	鉄道林について	<p>ドマツ、ヨーロッパウヒのすべてが生育不良、倒木の危険性があり、撤去しなければならないということは、間違いではないか。半世紀以上かかって育ってきたものの中には健全な成長をしているものも少なくない。不良木の間伐で適切な管理を行えば針葉樹の景観を保て、後世に伝えていくことができる。特に冬の景観を考えた場合針葉樹の位置づけは重要であると思います。</p>	<p>7丁目通より西側の針葉樹林に関しては、間伐の遅れにより過密な人工林となっていることから、生育状況が悪く、倒木している樹木もあるため、樹林として危険な状態であると考えております。</p> <p>しかし、ご指摘のとおり、鉄道林の景観を残し後世に伝えることは野幌地区都市緑地等整備検討委員会(以下検討委員会)でも重要との意見を頂いていることから、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。</p> <p>また、平成29年度には樹木医による樹木診断を行い、冬の景観にも配慮し、残す樹木を具体的に選定する予定です。</p>	C
2	鉄道林について	<p>野幌駅前鉄道林は、都心において少ない自然であり、保護することは当然であると思う。計画案では、野幌地区の開拓以前の原始的な樹林の再生を目標とするところがあるが、太古の原生林が近くにある江別において、過密な人工鉄道林を伐採し、自然の再生を目指すとしているが、鉄道林に手をつけ樹林の再生を行っても、その樹林は自然のものではない。</p> <p>私たち市民の仕事は、都心の貴重な人工鉄道林を後世に伝えることである。10年後なのか5年後なのか分からないが、後世の市民が鉄道林を生かした都市整備を考えた方が良いと思う。小樽運河もそうだったように、保全することが第1だと考える。手を加えるのかどうかは、そのあとのことである。</p>	<p>鉄道林を残し後世に伝えることは検討委員会でも重要との意見を頂いていることから、今後、樹木医による樹木診断を行い、残せる樹木を具体的に選定してまいります。</p> <p>併せて、江別の気候風土に合う樹木(自生種)を用いて、将来に健全な樹林帯として受け継がれるよう努めてまいります。</p>	C
3	鉄道林について	<p>①鉄道林としての機能(防風雪林)を最優先することが望ましい。</p> <p>②現林分の保育や造成に当たっては、鉄道林の機能が低下しないよう実施することが望ましい。</p> <p>③現鉄道林は、過密でありかつ保育不良であるため、今後の機能維持のため、徹底した保育(間伐、除伐、群状・帯状の更新伐採)を行うことが望ましい。</p>	<p>計画地内の鉄道林につきましては、連続立体交差事業により鉄道を高架化したことにより、鉄道防風雪林としての機能の必要性はなくなりましたが、鉄道林の景観については後世に伝える意味から、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。</p> <p>しかし、間伐の遅れにより過密な人工林となっていることから、生育状況が悪く、倒木している樹木もあるため、樹林としては危険な状態であると考えております。今後整備を行っていくにあたっては、倒木の危険性のある樹木や、健全な成長が望めない樹木は取り除き、専門家の意見を踏まえた検討を行い地域本来の自然植生の再生にも取り組みたいと考えております。</p>	D

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
4	鉄道林について	<p>①明治からの日本近代化のエネルギー資源として幌内石炭を活用するために、小樽幌内間の鉄道がいち早く整備され、江別は中継基地となった。平坦地で多雪強風の荒野を安定して走るために、鉄道先進地の欧州各国の視察研究を重ねて鉄道林の整備が進められたとされている。</p> <p>②「北海道鉄道林の歩み」「鉄道防雪林の研究で(道立図書館蔵)」によれば、北海道内でも多数地区で鉄道林が整備され、大正10年に北大小出林学博士の全道調査もあるが、道条例に基づく環境緑地保護地区の知事指定は、江別鉄道林が唯一のものである。全国でも鉄道林が整備されたところはあるが、保護地区に至るほどのものが現存するか。</p> <p>③大正2年ころから整備が始まったと思われるが、それに先立つ苗木づくりが伴っているので、用地確保とともに明治からの取り組みと思われる。</p>	<p>江別市は、石狩川水運と鉄道輸送の結節点として市街地が発展してきた歴史的背景からも、その輸送を支えた防風林の役割は大きかったと考えております。</p> <p>鉄道林の景観を残し後世に伝えることは検討委員会でも重要との意見を頂いていることから、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。</p> <p>今後も頂いたご意見を参考に、整備に当たりましては専門家の意見を踏まえた検討を行ってまいります。</p>	E
5	鉄道林について	<p>鉄道林は7つの効用を考えたとされているが、その中に「旅情を豊かにする美的色彩を加美した」と記されている。これは今にも通用する。家並みが張り付いた現在も、江別市内を10kmにも続く、緑の景観は今でも旅情を楽しませる全国に誇れるものと思う。</p> <p>日本近代化の産業遺産を旅情豊かにする緑の景観との2枚看板で江別鉄道林の価値を一層高めることになる。この道筋をつける取り組みがほしい。</p> <p>この価値付ができれば、保全資金はJR全国各社、全国鉄道ファン、ふるさと納税等で資金確保有の展開ができるし、返品品として、間伐材を活用したレリーフのような品を提供すれば、以降に続くリピーターにもなる。</p> <p>新幹線の札幌延伸が実現する頃江別鉄道林が観光スポットになっているといいなと思う。今担当の都心整備課では、所管外であるならば、関係部課を加えて共管体制にしてでも取り組むべきだと思う。江別鉄道林の保全・整備の推進仕掛人は江別市以外ではありえないので。</p>	<p>計画地内の鉄道林につきましては、連続立体交差事業により鉄道を高架化したことにより、鉄道防風雪林としての機能の必要性はなくなりました。</p> <p>しかし、鉄道林の景観については後世に伝える意味から、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。</p> <p>また、江別の特産であるレンガを使用した施設づくりなど、地元の特色を生かした空間づくりを行っていきたくと考えております。</p> <p>なお、都市緑地の整備・保全に向けては、行政と市民の皆さんとの協働が不可欠と考えておりますことから、市民の皆さんの意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。</p>	B
6	鉄道林について	<p>過密、生育不良、枯木が出る現状は手入れを怠り放置していることで生じている。長寿の人工林は当初から、植林から早期に防風雪に効果が出る密植の工夫をし、成長とともに除伐、枝折、開伐、下草刈が設定実践されてきたのが近年行われていないことになる。さらに開伐等の手を加えないことが保護区の内り方と誤り判断もありはしないか、育林の十分な知識を持つことは今からでも必要だと思う。</p>	<p>ご指摘の通り、7丁目通より西側の針葉樹林に関しては、間伐の遅れにより過密な人工林となっていることから、生育状況が悪く、倒木している樹木もあるため、樹林として危険な状態であると考えております。今後整備を行っていくにあたりましては、倒木の危険性のある樹木や、健全な成長が望めない樹木は取り除き、専門家の意見を踏まえた検討を行いながら地域本来の自然植生の再生にも取り組みたいと考えております。</p>	B

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
7	市民参加・住民説明について	公園の固定観念にとらわれすぎていませんか？すべてを造りなおさなければならぬような発想が目立ちすぎませんか？現在の樹林をできるだけ残し、どう景観を作っていくかが重要です。このパブリックコメントで市民参加のすべてにするのではなく、市民にボランティア参加を求め、現地で議論してはどうでしょうか。一度失われたものは取り戻せない。	計画地内には、人工的に針葉樹が植えられた「過密な人工林」と、地域本来の植生が残る「自然度の高い樹林」があり、それぞれ樹林の状況に応じた保全・再生・活用の方針について検討委員会にて協議を行いました。 その結果、「過密な人工林」に関しては、地域の自然植生への再生に時間をかけて取り組むとともに、一部を市民の憩いや集いの場、災害時の一時避難場所としても使える空間を確保する方針としております。 「自然度の高い樹林」に関しては、極力人為的な影響を与えないよう、最小限度の整備に留める計画としております。 今後、事業を進めるにあたりましては、市民の皆さんの意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。	C
8	市民参加・住民説明について	計画図では並木景観の1列しか鉄道林が残らないようだ。本当にそれで良いのだろうか。緑地の有効活用の前に、緑地をつくるため鉄道林を伐採することはどうなのか、再度市民に意見を求めてほしいものだ。	鉄道林の景観を残し後世に伝えることは検討委員会でも重要との意見を頂いていることから、1列に限らず、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。 また、今後詳細な設計を進めていくにあたっては、市民の皆さんの意見を伺いながら進めてまいりたいと考えております。	C
9	市民参加・住民説明について	周辺説明について 今後のスケジュールに、ゾーニング計画についての近隣への説明会等がありませんが、すでに近隣住宅、マンション等の理解は得られているということでしょうか。 広場の整備により、人の往来は増えることになると思います。森林保全や防災面だけでなく防犯面での対策も必要と感じます。【防犯面での明るさ確保や江別警察署への警邏コース組み込み依頼(毎日は無理でも、駅や銀行等の巡回に合わせれば可能と考えます)】	今回提示している「都市緑地等の整備・保全方針(案)」は、これから具体的な検討に入るための基本的な考え方をまとめたものであり、この案をもとに後は市民の皆さんの意見を伺いながら事業を進めてまいりたいと考えております。 また、安心安全な公園・緑地づくりをするには、行政と地域の皆さんの連携が欠かせないと考えております。	E
10	市民参加・住民説明について	江別市は企画推進役、市民は協働での日常保全活動役として係ることでしょうか。かつて、大麻駅周辺の鉄道林伐開で反対運動があった。その後反対運動をした者ですら、育林に活動していない。これはだめだと思うが、根本は保全・整備を企画推進する計画が無いためだと思うので、この際、江別市は、十分知識を深めてその役割は江別市が担うべきと考えてほしい。	今回提示している「都市緑地等の整備・保全方針(案)」におきましても、市民との協働により樹林環境の管理を行っていくことは重要な課題と位置付けております。 実現に向けては、市民と協働で樹林環境の管理を行える仕組みづくりは欠かせないと考えておりますことから、今後事業を進めるにあたり、その点を踏まえた議論をしてまいりたいと考えております。	B

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
11	市民参加・住民説明について	市民参加・管理について 今回のゾーニング計画の基本となる【「江別市緑の基本計画」の2-4 江別市における緑の課題】では、当時の現状に関して「鉄道林については保全をも望む声が大勢ですが、保全を考えた時に市民ぐるみでの保全活動の推進が図られていないことや所有者との協議により具体的な保全などの手法が見出されていないことが課題となっています。」との記載がありました。市民ぐるみでの保全活動に関して、環境保全に興味ある市民だけを募る予定なら問題ないかと思われませんが、広く市民参加を呼びかけるのであれば、自治会・学校等の団体への協力が必要と思われます。しかし、住民・自治会・学校等それぞれのつながりが弱くなっている状況（自治会費を払うのみで運営にはかかわりたくない住民、部活動を理由に自治会活動に参加させない学校、市が取りまとめてくれればと思う自治会等）で市民参加も最初の植樹だけで、継続的な市民参加は難しく、また江別市も公園管理者等に管理を依頼して、ノータッチの構図が目に見える状況です。継続的な市民参加の構図を最初の段階から制定・周知していく必要があるように感じます。【雪解け後の住民・自治会・学校での合同ごみ拾い(定期清掃)や植樹イベントを毎年行う等】	ご提案にもありましたように、実現に向けては、自治会・学校等の団体を含め、市民と協働で樹林環境の管理を行える仕組みづくりは欠かせないと考えておりますことから、今後事業を進めていくにあたっては、その点を踏まえた議論をしてまいりたいと考えております。	B
12	市民参加・住民説明について	観光目当てではなく市民が憩う場として後世の市民が考えて鉄道林を生かしてほしいものだ。	今後詳細な設計を進めていくにあたりましては、樹林の将来像について市民の皆さんの意見を伺いながら検討してまいりたいと考えております。	C
13	整備について	倒木の恐れのある木に関しては、安全上、伐採で構わないと思います。広場の芝生に関しては、土壌の状態、予算の問題があると思いますが、スケッチ同様の緑のある芝生の方が明るく、気持ちよさそうに感じます。ペットの糞は配慮してほしいです。	今後詳細な設計を進めるにあたりましては、いただいた意見も参考に、検討を行ってまいりたいと考えております。	B
14	整備について	優先順位の話ですが、仮に専門家意見により、広場整備のための大規模な伐採、過度な植樹は既存生態を大きく変化させるとの、見解が出された場合、広場整備を中止し倒木の恐れがある樹木の伐採のみとの、計画変更もあり得るのでしょうか。	野幌地区の都市緑地は、「樹林の保全・再生による市街地の集いの緑地づくり」を目指しており、その中で、緑地の活用に関しては、イベント・健康づくり・遊び・一時避難場所等の多様な野外活動が可能な場として位置付けており、こうしたスペースの確保は必要と考えております。 なお、具体的な広さに関しては、今後、詳細な設計を進める中で、市民の皆さんからの意見等を参考に設定してまいりたいと考えております。	E
15	整備について	私たち市民は鬱蒼とした鉄道林に違和感もなく、市民の生活に溶け込んでいる。鉄道の高架化により、その存在が薄れてきているのも事実である。しかし、都心の鉄道林を保存することは後世に対し重要なことと思う。したがって、安全のための最小限の整備・保全を提案したい。	鉄道林の景観を残し後世に伝えることは検討委員会でも重要との意見を頂いていることから、良好な状態である針葉樹は可能な限り残したいと考えております。 併せて、江別の気候風土に合う樹木(自生種)を用いて、将来に健全な樹林帯として受け継がれるよう努めてまいります。 また、平成29年度には、樹木医による樹木診断を行い、専門家の意見を踏まえながら、具体的な樹林の保全・再生に向けた検討を行ってまいります。	C

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
16	整備について	<p>鉄道高架下も可能であれば修景されることが望ましい。今の計画では、線路に沿う横の整備でこれでは、EBRI、イオン、鉄道林とばらばらで一体化しない。利用者の願いは歩いて行き来して楽しめる動線が出来ることだと思う。この3か所を縦につなぐ、庭園歩行回廊を考えてはどうか。間伐は最小限にして、枝折を十分にし、樹木の美しさと、下草は陰陽を考えた、四季に対応させ通行の楽しみを作る。こうなればイオンもEBRIも自前で出入口のサイン施設の整備をされるであろうし、高架下も連動した修景を作れるのではないかと。</p>	<p>今回提示している「都市緑地等の整備・保全方針(案)」におきましても、住民や来訪者の回遊性を高める通路の配置、人を導くサイン類の設置、レンガを用いた施設づくり、近隣商業施設(主にEBRI)との一体性を持たせる等、地域の魅力を生かした整備は重要であるとしています。今後事業を進めていくにあたりましては、近隣商業施設等との連携を視野に入れた検討を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>なお、鉄道高架下の空間については、鉄道所有者や整備後の管理者と協議を行い、利用の制限について検討していくことが必要と考えております。</p>	B
17	整備について	<p>春先の緑の少ない状況を見ての感想ですが、自然林保全ゾーンに散策路を作るだけの見どころがあるのでしょうか。学習の場としても物足りないように思えます。散策路は不要で、安全に配慮した伐採のみで手をつけられない方が良いのではと感じました。</p>	<p>自然林保全ゾーンは、旧河川や沢地の地形が残り、その水辺の環境も昔の自然の名残が見られます。樹木や生物の調査を行い、身近な地域の自然を学ぶ学習の場として活かせるよう工夫してまいりたいと考えております。</p>	C
18	整備について	<p>自然林保全ゾーンの水辺環境の整備は市民が触れ合えるきれいな水と安全性が確保されるべき。大麻中央公園のように水辺に近づくことができないような思いを繰り返すことのない配慮をお願いします。</p>	<p>計画地内の水辺は、北海道固有の生物が生息している可能性が高いことから、環境を保全する上で重要な場所と考えております。</p> <p>そのため、近年問題となっている外来生物等が持ち込まれないように対策を取る必要があるとの検討委員会での協議結果を踏まえ、利用者と水辺の間には一定の距離を離すことが重要と考えました。</p> <p>そこで、自然環境を保全しつつ、市民の財産である水辺環境の保全に向けた理解が促されるよう、また、地域の自然を学ぶ学習の場として活用できるよう、具体的な検討を行ってまいりたいと考えております。</p>	D

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の 反映状況
19	自然環境の保全 について	<p>この緑地を整備・保全するには、環境因子(気象、地形、土壌)と生物との関わりが、最も重要なファクターとなるものと考えられる。</p> <p>①気象 江別特有の風雪(夏季は南風、冬は北北西)を緩和する必要がある。</p> <p>②地形 当鉄道林は平地林で風や雪の影響を受け易く、市民生活や社会的活動に関わるものが多いものと考えられる。</p> <p>③土壌 平坦地は一般的に水はけが不良で、過湿地や固結し、樹木等の成長等に影響を及ぼすことが考えられる。</p> <p>④生物 当鉄道林に関する生き物として、動物(人間、哺乳動物、野鳥、昆虫等)植物(樹木、草本類)、菌類(キノコ等)があり、これらの関わりを十分に検討する必要がある。</p> <p>【整備・保全の方向についてのコメント】</p> <p>①環境因子にそった施業計画(長期)の樹立が必要である。</p> <p>②今後の造成に当たっては、生物多様性や生態系の保全を十分考慮した持続的な施業が望ましい。</p> <p>③植栽や育成に当たっては、複層林、混交林(高・中・低木の組合せ、常緑・落葉樹の組合せ、陽樹・陰樹の組み合わせ等)施業を検討することが望ましい。</p> <p>④生物多様性や生態系を保全と維持するため、多様な樹木(樹形、樹冠、枝葉、葉の色・形、花の果実・紅葉・香り等)や景観木、誘獣木、誘鳥木、誘虫木、誘菌木等の導入が望ましい。</p> <p>⑤湿性地の造成に当たっては、現存するヤチダモ等の耐湿潤性樹種を生かすとともに、湿性植物の導入を図り、ビオトープとして淡水魚、水性昆虫等の導入を行うことが望ましい。</p>	<p>ご助言頂いた事項を参考にさせて頂き、地域本来の植生環境の保全・再生を目指し、時間をかけて地域で採取できる種子で苗を育て、植栽することも検討してまいります。その際に、苗木の調達方法や植生基盤・植生環境のあり方についても、検討を行ってまいりたいと考えております。</p> <p>また、植生の保全・再生にあたっては、「都市緑地等の整備・保全方針(案)」を基本に、最終的には地域本来の植生に再生していくため、今後専門家を交えた詳細な検討も行ってまいります。</p>	B
20	冬期間の計画について	<p>多雪地で年間の1/3は積雪であるので、冬の計画が必要である。道路除雪の堆雪地になるしかないのであればロータリー車で飛ばしても損傷しない整備を考えておく必要がある。冬も活用できるようにするなら更にいい。</p>	<p>今後詳しく設計を進める中で、冬期の都市緑地のあり方についても検討を進めてまいりたいと考えております。</p>	C
21	冬期間の計画について	<p>冬季期間について 冬期間は、立ち入り禁止でしょうか。それとも通路の除雪を行い、7丁目通だけでなく、グリーンモール、通り抜け歩道も通行可能となるのでしょうか。</p>	<p>今後詳しく設計を進める中で、冬期間の通路の利用も含め、都市緑地の冬のあり方についても検討を進めてまいりたいと考えております。</p>	E

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
22	植栽について	植栽は現鉄道林にマッチした樹種や野草等とし、今人気の園芸的改良種にしないことが遠い未来へつながると思うし、江別特産のレンガを使うのであれば、古いレンガの風合いを考える等の工夫がいる。写真スポットもほしい。	今回提示している「都市緑地等の整備・保全方針(案)」におきましても、林の再生にあたっては在来の樹種を基本とし、地域本来の植生の再生に取り組むことを方針としております。特に、植生再生ゾーンについては、在来の樹木を主体とした樹林や草花による再生を行っていく方針としております。 緑地内の通路やグリーンモールの舗装にはレンガを用いて、“江別らしい”景観づくりも検討してまいります。	B
23	植栽について	植樹に関して 植樹される樹種に関しては基本的に既存の樹種(ヨーロッパウヒやドマツ等)を主体にするとありますが、既存樹種は花粉の少ない樹種ですか。既存生態を保全することは大事ですが、憩いの場としての利用や景観も考え、樹種の選択は慎重に願います。	ヨーロッパウヒやドマツ等は、現在、7丁目通から計画地西側に過密な状態で育っている「既存の樹木」です。 これらの樹木は生育状況が悪く、倒木の危険性が高い樹林と考えておりますことから、ハルニレやミズナラ、シナノキ、エゾイタヤ、ヤチダモ等、郷土の樹木を用いて、江別の風土に根差した緑の景観の再生を目指してまいりたいと考えております。 実際に植える樹木の選定に関しては、今後、専門家の意見を踏まえた検討を行ってまいりたいと考えております。	C
24	資料について	資料の表現について、「現在の鉄道林は暗く見通しのきかない林と草花の生えない林床で過密な人工林」と表現すると、手を加えなければだめだという考えに結びついてしまうので、表現について注意して欲しい。	今後、事業を進めるにあたりましては、いただいた意見を参考に、表現の方法等について検討してまいりたいと考えております。	E
25	資料について	パブリックコメント資料・委員会資料について 会議録を拝見させていただきました。樹木に詳しい委員の方の意見は非常に参考になりました。会議録も踏まえ、気になる点について述べさせていただきます。 ①「野幌地区都市緑地等の整備・保全の方針及びゾーニング計画(案)」のイメージ図について、第4回の委員会資料と同様に、現在の写真と対比した形で載せた方が、よりイメージしやすいように感じます。 ②①と同様に第5回のイメージ図(10年後)に関してもゾーニング計画(完成案)に載せるべきだと思います。記載のゾーニング計画図をよりイメージしやすくなります。また、木々の成長図よりも景観や全体の将来図の方が計画をわかりやすいと思います。 ※今のイメージ図(10年後)をそのまま載せては駄目です。トイレ等の縮尺に無理があります。	今後事業を進めるにあたりましては、頂いたご意見を参考に、分かりやすい資料づくりを心掛けたいと思います。 なお、具体的な形状や規模に関しては、今後、詳細な設計を進める中で、市民の皆さんの意見等を伺いながら設定してまいりたいと考えております。	C
26	資料について	道新の2月8日の報道によると、防風林を3つのゾーンに分け、最も野幌駅に近い地区は防風林の大半を伐採となっている。計画案でも、集いの広場ゾーン(野幌駅に近い)は危険な針葉樹を伐採、植生再生ゾーンでも在来の樹木を主体として再生とあり、鉄道林が残されるような記述となっているが、どの程度残すのかきちんと表現するべきである。	集いの広場ゾーンと植生再生ゾーンにつきましては、危険木や成長の見込めない針葉樹は伐採としていますが、伐採を行う範囲につきましては、今後樹木医による樹木診断を行い、専門家の意見を踏まえた検討を行ってまいりたいと考えております。	E

No.	項目	寄せられたご意見	ご意見に対する市の考え方	意見の反映状況
27	グリーンモールについて	わたしも実際に現地周辺を歩いてみました。グリーンモールについて、JR駐車場とJAバンク駐車場、ガソリンスタンドの間に整備予定とのことですが、道幅が狭く、駅側から歩いた際、右手のJR駐車場がきれた後はJR駐車場の幅文、高架柱まで道幅を広げる予定なのでしょうか。現計画の場合、蛇行させる意味がないと感じました。	今回検討を進めているグリーンモールにつきましては、散策路としての意味合いが他のグリーンモールよりも強く、敷地幅8mの中で、歩行者自転車専用道を蛇行させることによって、緑を感じるやわらかな景観づくりができるものと考えております。	C
28	その他の意見	札幌市民200万人を取り込んだ江別ブランドになる。地方創生でもある、苦境のJRには明るい事業になる。稀勢の里が自らの頑張りで歴史に残る成果を上げた様に、この事業に関わる皆さんの情熱を期待する。江別市の歴史につなげてほしい。	既存の貴重な自然の保全と、混み合った人工林の再生と、市民利用との3つのバランスがとれた緑地整備を目指しております。また、住民や来訪者の回遊性を高める通路の配置、人を導くサイン類の設置、レンガを用いた施設づくり、近隣商業施設(主にEBRI)との一体性を持たせる等、地域の魅力を生かした整備に向けて、市民との協働も実践しながら事業を進めてまいりたいと考えております。	E
29	その他の意見	利用方法に関して 高架下であるとはいえ、線路付近のため、憩いのゾーンでの使用に規制がかかるのでしょうか。(キャッチボールやラジコンヘリ等浮遊物の使用の禁止、イベント使用時の規制等)	今後詳細な設計を進めるにあたりましては、鉄道所有者や整備後の管理者と協議を行い、利用の制限についても検討していくことが必要と考えております。	E
30	その他の意見	街灯について エントランスゾーンの記載に「視界の妨げとなる樹木を一部除き、通路の見通し、夜間の明るさを確保する」とありますが、月明かりや周囲の光のみで、基本的に街灯の設置は必要ないということでしょうか。	エントランスゾーンに限らず、都市緑地内の通路沿いやグリーンモールには、防犯用の照明を設置する予定です。 なお、具体的な配置に関しては、近隣住宅への影響、林の中の生物への影響等、今後詳しく設計を詰める中で検討してまいります。	E
31	その他の意見	今回は野幌地区限定で考えようとしていると思えるが、江別市は「緑の基本計画」等で江別鉄道林の整備・保全を標榜している。知事告示の保護地区であり、1部地区の変更であっても道庁との協議が必要であると思う。所有者とも当然協議が必要と思う。先導して言い出す江別市としては江別鉄道林の今後の整備・保全の考えを明らかにして協力を得る手がかかりをも得るべきだ。	都市緑地の整備にあたりましては、環境緑地保護地区の整備の協議を北海道と行ってまいります。また、現土地所有者との協議も引き続き行ってまいります。	E
32	その他の意見	予算計画が示されていない。江別市単独予算なのか、第1義的には所有者と知事負担ではないかと思われる。今後への前例にならないよう留意するとともに江別市鉄道林の全体の整備・保全の資金分担等への道を開く心組がいる。	予算については国の補助制度を活用し、江別市が事業を行う予定です。	E